

令和3年度 第1回磐田市行政経営審議会 議事録

日 時 令和3年8月2日（月） 18時30分から20時00分まで

出席者 委員 13名

秋元富敏 委員、浅野真人 委員、飯田昌弘 委員、井上佳子 委員

岡本一夫 委員、杉本達男 委員、鈴木敦之 委員、砂川利広 委員

高柳裕久 委員、竹内育代 委員、永井新次 委員、村上勇夫 委員

鷺崎早雄 委員

事務局（企画部長、秘書政策課長、秘書政策課グループ長）

進行：秘書政策課長

1 開 会

2 定足数の確認

3 市長あいさつ

4 会長あいさつ

5 新規委員自己紹介

6 議事

- ・人口推計について
- ・第2次磐田市総合計画後期基本計画（案）について

■人口推計について

<p>委員</p>	<p>一つ質問と一つ意見だが、一つの質問というのは2015年に人口ビジョンを作って、まち・ひと・しごと創生総合戦略を作って、予定より人口が減らなかったということだが、総合戦略の中で効果があったことを簡単に教えてもらいたい。</p> <p>これは、意見だが、「年少人口」、「生産年齢人口」、「老年人口」というところで、生産年齢人はOECDが定義しており、15歳から64歳だが、実態を考えると人生100年時代で、この4月には各企業に70歳まで雇用努力義務を課している状況で、定年延長している。そう考えると、この区分は、もうちょっと別の観点で考えてみてもいいと思う。あと、老年人口という老年という言葉自体がどうかとを感じる。言葉のところから少し変えていくのも一つの考え方とも思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>人口があまり減らなかった要因だが、結果的に景気の回復とともに外国人の方が磐田市に戻ってきてくれたというのが一番大きいと分析している。その他戦略の中でいうところは、検証中である。</p> <p>「老年人口」、「生産年齢人口」の定義については、委員がおっしゃるように、どういった年齢の方が今現役で働いているかというところを踏まえて検証し、これからの分析の中で生かしていきたいと思っている。老年人口という言葉については、検討していく。</p>
<p>委員</p>	<p>私のほうで感じていることを申し上げる。まずこの人口減少の歯止めに関する施策を、考えなければいけないと思う。その中で、1番キーになるのは、「磐田らしさ」だと思う。前市長のときから、総合力ナンバーワンの中核都市を目指すということで大きな考え方は賛同するところであり、その中でも特に、「磐田に住みたい。ここがいい」というところが1番肝心かと思う。市長の所信表明の中に出てくる、「磐田市の新しい産業の芽を育てていかなければならない。」といったことを取り組んでいくべきだと思う。ここから先、静岡産業大学や企業と連携しながら、時間がかかる話だと思うが、特に力を入れて考えていく中で、医療や育児なども踏まえて総合的に磐田市を発展させていくということ、考えていく必要があると感じている。</p>
<p>市長</p>	<p>そこを市民にどうやって伝えるかと考えている。「新しい技術を学ぶ」、「最先端の事例を学ぶ」、学び続けること、それから、古い考え方や道徳などを学ぶことも大事だと思う。とにかく新しいものを常にブラッシュアップしているまちだと、ベンチャー企業やスタートアップを志す人たちに発信していきたい。常に新しいものを受入れていき、古いものも新しいものも受入れて学ぶんだっていうことは、このまちで核としてやっていきたいことのひとつである。それが、どういう形で市民に、言葉として伝えていこうかを考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>この人口がなかなか増えない要因は、社会的な要因と、経済的な要因の2面から考える必要がある。</p> <p>社会的な要因としては、一つは、人口がここで増えていると言っても外国人の影響ということで、この傾向はこれから続いていくと予想される。減少していく自然減に対しては、外国人とのコミュニティーの共生というのを打ち出すことによって、その層からの転入数を政策的に増やしていくことが必要。もう1点の社会的な要因は、婚姻率を上げるようなものを考えていくべきだと思う。</p> <p>経済的な要因のところは、創業支援・スタートアップを呼び込むというのは、これはもちろん重要であるが、既存の工場や事業者をいかに留置していくかということも重要だと思う。コロナの影響</p>

	<p>で、サプライチェーンの在り方は相当見直されてくる。SDGsの視点から、エネルギー問題、脱炭素、インフラがそろっている地域かどうか、ということも含めて、既存企業が出ていってしまうリスクも今まで以上に高まってくる。他のサプライチェーンを磐田に呼び込むというチャンスもある。まずは、今ある既存の事業者、雇用を多く持ってらっしゃるところを、しっかり磐田につなぎとめるといふ動きを意識する必要がある。</p> <p>社会的な面と、先ほど申した、経済的な面、両面から、総合的に考えていってほしい。</p>
委員	<p>人口を考えると、磐田市内部だけではなく、磐田市の外部との関係性において捉えていく必要があると思う。コロナ以降非常に大きくその局面が変わったというのは、東京都の社会減が続いていることである。多く減っているのは、外国人で、東京流入はさほど増えていないというふうに言われている。こういう状況を捉えて、新たに磐田でどのように取り組んでいくかを考えていくことが必要。コロナ後も、今ここで取り組もうとしている中身が重要になってくると思うので、夢物語でない現実方向を見出していけたらと思う。</p>
委員	<p>今後、市では、若い方との対話を多くされる取り組みがあると思うが、結婚しない若い人たちの意見を共有し、生の声をこの会議でも届けてもらいたい。出生数を上げていくには、今の若い人と一緒に考えて、委員の中で如何に紐づけしながら具現化できるかだと思う。対話重視で、古きよきものを勉強しながら新しいものを得ていくところでは、必ず共感をしていただけるのではないかな。</p>
委員	<p>社人研が人口推計を公表したときに、全国的に一気に話題になった。労働人口を維持することは必要である。</p> <p>人口を増やすのは出生率を増やすか、外国人を受け入れるとかで維持できるかもしれないが、大切なのはどのような社会・市をつくるかということ。総合計画で、限られた人口、労働力の中で、市として、政策的にやっていくことを検討していただきたい。様々な面から、トータルで考えて議論する必要があると感じている。</p>
委員	<p>魅力あるまちをつくっていくために、経営者の産業とか雇用、若い方の生の声を実際に聞く場を、今後設ける必要があると感じている。住民、企業で働く方々、いろいろ我々の組織の中にいるので、使っていただければと思う。</p>
委員	<p>働いている若い子たちがコロナ禍中で、結婚出産が、影響を受けている。また、コロナとは関係なく、結婚出産に関する相談も、とても多く受けるようになった。仕事と家庭とのバランスについて相談できる人がいると救われる人が多いと思う。</p> <p>コロナの影響もあって、地元に戻りたい学生が増え、Uターンがとても増えていると感じる。ただ全てに答えることができるだけの産業があるかを考えたときに、今がチャンスだが、受け切れない現状も感じている。産業・働き方について考える必要があると思う。</p>
委員	<p>若い人たちと働くことの意義と、磐田で働くことの意義について一緒に考えてみたい。個人事業主の中には、自分たちのことを知ってもらふ機会を学生に対して作っていきたいといった意見がある。意見交換などにより、磐田で働くことの意義やキャリアデザインと一緒に考えていく機会があったらいいと思う。</p>

委員	<p>晩婚化と若者に元気がないのが気になる。男女の出会いの場が少ないのかなと感じ、出生率の低下につながっているような感じがする。</p>
委員	<p>空き家を貸し出すなどの「若い人のまちづくり」により、人口も増えていくと感じている。空き家の活用方法をシステム化することができれば理想。いろんな問題があるが空き家の片づけ費用等について補助金などがあれば、借りるほうも、管理するほうも何か変わっていくのではないかと感じている。</p>
委員	<p>人口の件については、外国人を増やすためには、外国人の教育の問題などの対策をしていけば増えると思う。</p> <p>また、若い人たち同士でいろんな話合い、あるいはその仲間をつくる、そういう機会をもっともっと増やすべきだと感じている。将来的な生活を日常の中で実感として、知る機会を増やすことが大切だと思う。</p>

■第2次磐田市総合計画後期基本計画（案）について

委員	<p>資料3の④の「この分野の方向性」は、もう少し踏み込んでバックキャスト的な思考で、これが5年後のあるべき姿として、セグメント（分野）別に5年後の市の姿をどういうふうに市は考えていて、それに基づいてどういう施策展開をするか見せたほうが良いと思う。</p> <p>資料2のところでは、他分野の基本施策とすごく密接に関係して各分野の目標を達成すべきものがある。この基本施策のところの施策面の連関フローがあるといいと思う。</p>
事務局	<p>わかりやすくしたいと考えるので、少し検討させていただきたいと思う。</p>
委員	<p>今後、意見交換をしていくのに、ずっと分野別に分かれて議論をしていくのか。それとも、その会議ごとにそれぞれほかの分野に行って意見交換をするのか？</p>
事務局	<p>まずは、2日間の分科会で、担当ごと1個ずつ審議していただく。分科会の開催中にも、その他の分野についても何かしらの方法で意見できる機会をつくりたいと思う。その後、全体を通じてご意見をもらいたいと考えている。</p>

7 閉会 審議会 終了（20：00）